

25 県遭第 1 号

25 教入第 139 号

平成 25 年 (2013 年) 4 月 30 日

都道府県遭難防止対策主管部局長
(社) 日本山岳協会会長
都道府県山岳協会 (連盟) 会長 様
長野県内市町村教育委員会教育長
長野県地区山岳遭難防止対策協会会長

長野県山岳遭難防止対策協会会長
(会長: 長野県知事)
長野県教育委員会教育長

山岳遭難にかかる注意喚起について (依頼)

本県の山岳遭難防止につきましては、日頃から格別のご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、既に報道等で御承知のとおり、大型連休を迎えた 4 月 27 日から 28 日にかけて、本県の山岳では雪崩や滑落等により 4 人が死亡、2 人が行方不明となっているほか、6 人が重軽傷を負うなど、山岳遭難事故が相次いで発生しております。

これまでも春山登山は、短い周期での天候変化により行動ができなくなったり、雪崩や滑落による遭難の危険性を繰り返し指摘してきたところですが、昨年この時期に、低体温症により 6 名パーティ全員が死亡するなど、毎年、痛ましい事故が繰り返し発生していることは、極めて遺憾な事態であります。

また、本年 1 月から現在 (4 月 29 日現在) まで、本県山岳で発生した遭難件数と遭難者数は、ともに過去最悪のペースで推移し、特に、死者及び行方不明者は 16 人を数え、昨年同時期の 7 人をはるかに上回る深刻な事態となっております。

このような状況を踏まえ、貴職におかれましては、あらゆる機会を通じて登山者に対し、「春山は、雪が降れば雪崩に、晴れても滑落などの危険性がある冬山と同じ」であることを改めて喚起いただくとともに、登山に当たっては事前に、別添「岳山登り 10 訓」(当協会作成) に記した内容の確認を呼びかけてくださるようお願いいたします。

なお、長野県内の山岳情報については、長野県警察本部のホームページに詳細が掲載されていますので御参照ください。

【山岳情報開設ホームページアドレス】

<http://www.pref.nagano.lg.jp/police/sangaku/sangaku.htm>

長野県山岳遭難防止対策協会 防止対策部
防止対策部長 (県教委スポーツ課長) 茅野繁巳 (担当) 成田哲也
TEL: 026-235-7447 (直通)
FAX: 026-235-7476
E-mail: sports-ka@pref.nagano.lg.jp



2005 石塚真一/小学館



山登り 10訓 (くん)

【長野県山岳遭難防止対策協会】

その1 命の道しるべ **登山計画書**は 家族に託すメッセージ

登山計画書は、万一の場合の素早い捜索救助の手がかりになります。
登山口にポストがある場合もありますが、最寄りの警察署や警察本部にも届けられます。

長野県警本部への届出(メールも)

長野県警/登山計画書

検索

その2 登りたい山より **登れる山** 自分に見合った山選び

自分の体力や技術・経験に見合ったコースを選ぶことが大切です。
低山から経験を積み、登りたい山ではなく、登れる山を選びましょう。

その3 **体力・装備・知識の総合力**で 頂きめざす 登る前から体調管理

酸素が薄く、気圧が下がる高地では、十分な体力と万全な体調でなければ、発病やけいれんなどの思いがけないトラブルが発生します。

遭難者には「登る前から遭難している」と言われても仕方がないほどの軽装備の方がいます。
経験者や登山用品店のアドバイスを受け、登る山に見合った装備と知識を備えてください。

その4 山のマナーは **命のマナー** あいさつ交わし情報交換

「登り優先」「山側待機」「早出早着」などの登山マナーは周囲の登山者や山小屋への気づきだけでなく、事故の防止にもつながります。午後の5時、6時の山小屋への到着などは論外です。

登山道では、あいさつを交わし、励ましあったり、必要な情報を交換したりしましょう。

その5 年齢考え **ひかえめ登山** 過去の体力 過去のもの

遭難者全体の78.5%が40歳以上の中高年登山者です。60歳以上では46.6%です。(平成24年)
過去の経験を過信せず、体力やバランスの衰えを自覚した、行動計画をたてましょう。

山を汚さない！

人に迷惑をかけない！

無事 家に帰る！

特別隊員「島崎 三步」



2005 石塚真一/小学館

その6 ヘルメット 命を守る必需品 頭部の事故が命取り

滑落や転倒で頭部のケガをする遭難者は4人に1人。
あごひも締めれば気持ちも引き締まります。

その7 山の天気は生死を分ける 天気予報 は遭難予報

天候の判断を誤り、撤退が遅れる遭難ケースが目立ちます。山岳地帯の気象の変化は急激です。気象のチェックと早めの判断が正死を分けます。
一般の天気予報は平地のものです。専門の山岳気象予報を調べてから登りましょう。

その8 山頂は通過点 下山道こそ 細心注意

遭難は、足腰にダメージが蓄積される下山道で多発しています。
体力消耗も加わり、集中力が失われるのも下山道です。無事帰宅が最終目標です。

その9 登山はスポーツ 観光気分が 遭難まねく

道迷いや疲労で遭難した人の多くは「考えが甘かった」とよく言います。スポーツでは、試合の前にトレーニングし、作戦を立てるのは当たり前のこと。登山もスポーツでピクニックではありません。
観光気分の人まかせでは、自分の命は守れません。登山は自己責任とはいえ、要請を受け実際に救助に向かう側は、「命がけ」だということを忘れないでください。

その10 もしもに備える 山岳保険

救助・捜索活動は多額の費用がかかり、家族が経済的にも精神的にも大きな負担を負うことになります。
遭難は誰にでも起きる可能性があります。いざという時に備え山岳保険に加入しましょう。



【発行】

長野県山岳遭難防止対策協会 防止対策部
(教育委員会事務局スポーツ課管理係)
電話：026 - 235 - 7447 (直通)
：026 - 232 - 0111 (代表) 内線 4469
F A X : 026 - 235 - 7476
Email : sports-ka@pref.nagano.lg.jp



2005 石塚真一/小学館